

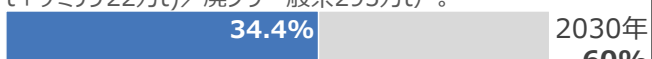
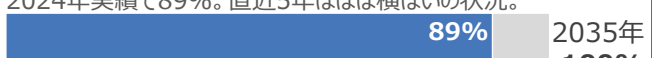
TF1：持続可能な容器包装設計タスクフォース

本タスクフォースについて

令和8年9月15日

プラスチック資源循環戦略に関する進捗（合同会議資料）

- プラスチック資源循環戦略のマイルストーンについて、現時点で把握できるデータを基に進捗を整理した結果、進展が見られる項目がある一方、とりわけリユース・リサイクル、再生利用及びバイオマスプラスチック導入に関するマイルストーンについては、更なる施策の強化が求められる。

区分	マイルストーン	参照データ例
リデュース	2030年までにワンウェイプラスチック（容器包装等）を累積25%排出抑制 【今回の確認方法】容器包装等の排出量の累積削減率。循環型社会形成推進基本法が制定された2000年と比較して、同年からの削減割合で評価する。一般社団法人プラスチック循環利用協会（プラ循協）のデータを基に算出。	プラ容器包装 ⇒20.2%（2024年） 【現状】プラ循協データでは、包装・容器/コンテナ類の排出量は2000年451万t→2024年360万tで20.2%削減。 
リユース・リサイクル	2025年までに製品デザインをリユース・リサイクル（難しい場合は熱回収）可能に 【確認方法】製品デザインに関するアンケート調査による把握。2024年度までに環境省・経産省のヒアリング調査で9業界がガイドライン策定済。環境省・経済産業省連名で業界団体（56団体／送付先1266社）へ実施。（回答期間：2025年6月～7月）	対応事業者の割合（n=361、2025年）⇒87% 【現状】有効回答361社をn値として、リユース・リサイクル（難しい場合は熱回収）可能とした事業者は87%。 
	2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル 【確認方法】容器包装等のリサイクル率（%）。プラ製容器包装のリサイクル率を算出。	プラ容器包装リサイクル率⇒34.4%（2024年） 【現状】プラ循協データで2024年実績は34.4%（（マテリアル76万t＋ケミカル22万t）／廃プラ一般系295万t）。 
	2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効利用 【確認方法】使用済プラスチックのリサイクル等による有効利用率（%）。埋立・単純焼却を除く有効利用率を算出・評価。	プラ全体⇒89%（2024年） 【現状】プラ循協データで埋立・単純焼却を除く有効利用率は2024年実績で89%。直近5年はほぼ横ばいの状況。 
再生利用・バイオマス	2030年までに再生利用を倍増（2030年度：10%） 【確認方法】再生材利用率＝（再生樹脂投入量）／（国内樹脂製品消費量＋加工ロス量）。2016年実績5%を基に、その倍を目安として該年度の算出・評価をする。	再生利用率⇒4.6%（2024年） 【現状】プラ循協データでは2016年実績は5%、これを倍増とすると10%。2024年実績は4.6%にとどまる。 
	2030年までにバイオマスプラスチック類を約200万t導入 【確認方法】バイオプラスチック類の製品重量（万トン）。温暖化対策計画での進捗確認。一般社団法人日本有機資源協会及び日本バイオプラスチック協会データを基に算出。	導入量⇒21万t（2024年） 【現状】2023年実績は17.7万t。2019～2023年の4年間で約10万tの増の21万tにとどまる。 

マイルストーン達成に向けた主要課題とタスクフォース（合同会議資料）

- プラ戦略の進捗状況を踏まえ、今後の課題領域として、「**設計**」「**排出・回収・処理**」「**需要・価値創出**」の3つの柱に集約。
- 各課題に対応する**3つのタスクフォースを設置し、他の制度・プラットフォームで検討されている内容と重複・齟齬がないような検討事項を設定し、重点的な検討を行うこと**としたい。

	マイルストーン		課題領域	TF	主な検討事項
MS ①	2030年までにワンウェイプラスチック（容器包装等）を累積25%排出抑制	→	設計	TF 1 持続可能な 容器包装设计	・循環性設計の在り方の検討 ・リサイクル阻害要因となる素材・成分・形態の整理 ・循環性設計の普及・高度化方策の検討
MS ②	2025年までに製品デザインをリユース・リサイクル可能 事業者100%				
MS ③	2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル	→	排出・ 回収・ 処理	TF 2 プラスチック 資源徹底回 収・サプライ チェーンの最適 化	・プラ資源の回収量拡大 ・リサイクルポテンシャルの高い製品類型・業態の整理 ・回収・選別・リサイクルのシステム高度化に向けた課題整理 ・優良事例の整理・横展開方策
MS ④	2035年までに使用済プラスチックを100%有効利用				
MS ⑤	2030年までに再生利用を倍増	→	需要・ 価値創出	TF 3 再生・バイオプ ラスチックの価 値創出	・再生材・バイオプラの利用拡大に向けた検討 ・環境価値の見える化（GHG削減効果の評価手法の整理、クレジット化等の価値創出方策の検討） ・マスバランス方式等による価値表示の在り方の整理 ・プラスチック資源循環の進捗を評価する指標及びモニタリング手法の検討
MS ⑥	2030年までにバイオマスプラスチック類を約200万t導入				

TF 1（持続可能な容器包装設計タスクフォース）の目的・方針

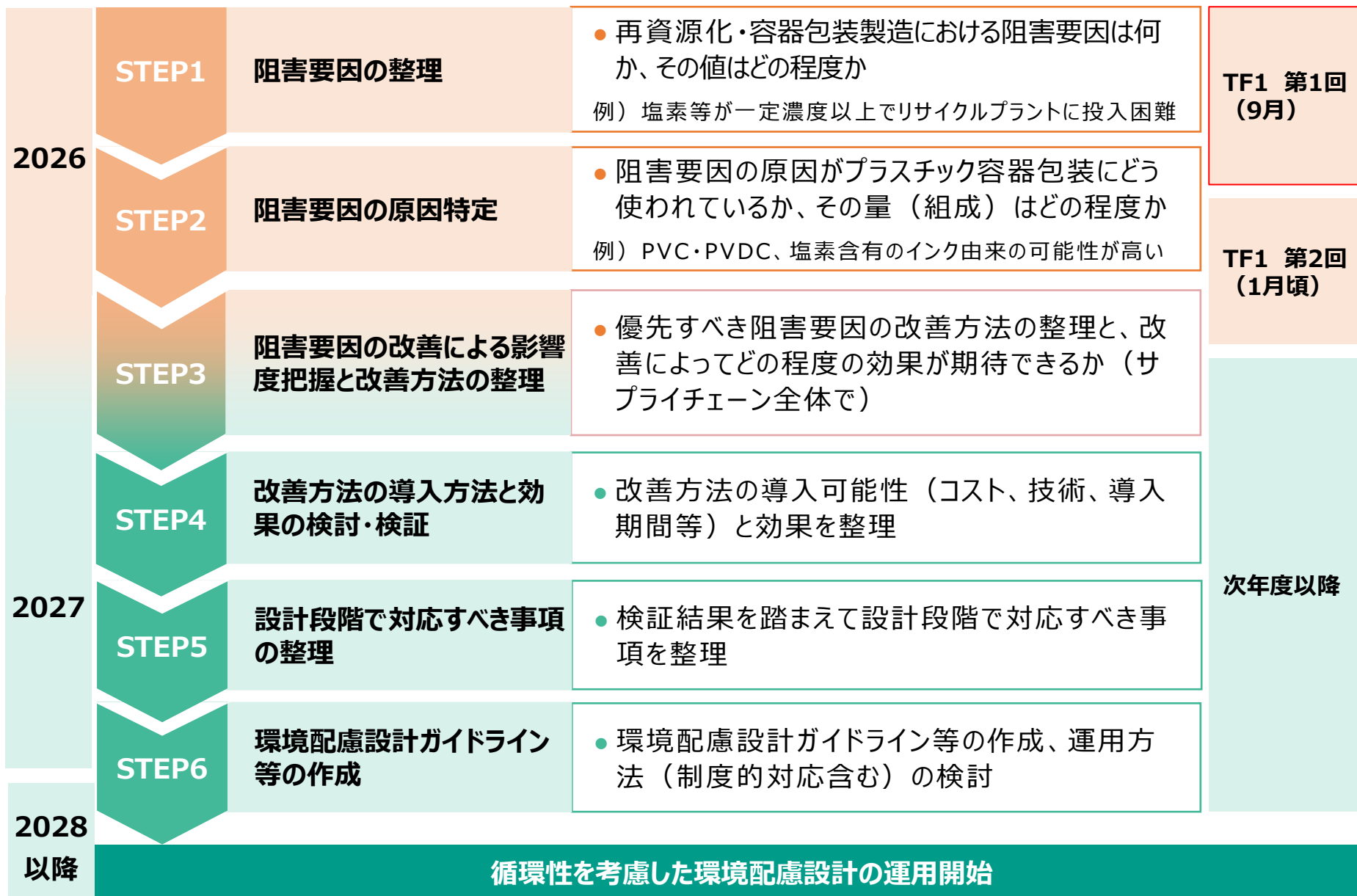
＜本タスクフォースの目的＞

- 再生利用倍増に向けては、再生プラの高品質化やコスト低減が必要であり、そのためには、従来の薄肉化・軽量化だけではなく、循環性を考慮した環境配慮設計を追求・実装していくことが重要である。
- プラスチック使用製品の中でも、とりわけプラスチック排出量が多く、環境配慮設計の難易度も高いプラスチック製容器包装を対象とする。
- 動脈側での設計の見直しだけでなく、静脈側での再資源化工程での設備導入等の工夫による対応の可能性も含めて、有識者やサプライチェーンを構成する関係者での議論を開始し、循環性を考慮した環境配慮設計ガイドライン等の策定を目指す。

● 今年度のTF1で目指す方針

- **再資源化工程・容器包装製造における阻害要因・優先課題の特定と動静脈間での共有**
 - 今年度TF1では再資源化における阻害要因、その所在、影響度を明らかにし動静脈間の共通認識を醸成する
 - 阻害要因のうち優先度の高い課題に着目、動脈・静脈でどのように対応できるかを整理する
 - 次年度の改善方法検討に向けた方針を整理する

持続可能な容器包装設計の実装に向けた進め方イメージ



TF1：今年度TF1におけるアジェンダ案

TF1 開催回	アジェンダ項目	得られる示唆
第1回（9月） リサイクルにおける 阻害要因・優先課 題の特定	● TF1について ➢ TF1の背景・位置づけと、目標及び今後の進め方【資料3】	● 今年度のTF1の目標、進め方
	● 国内容器包装プラスチックの資源循環に向けた課題と環境配慮設計の国外動向 ➢ リサイクル事業者へのアンケート・ヒアリング結果及び既存実証事業（経産省CPs 広域実証）から得られた課題と論点整理、今後のヒアリングの実施方針【資料4】 ➢ 欧州における容器包装の環境配慮設計ルール・指針の動向【資料5】 ➢ 農林水産省の取組及び関連事業の紹介【資料6】【資料7】	● 再資源化工程における阻害要因の認識共有 ● 再資源化工程における課題を踏まえて整理した論点と、今後の検討の進め方（優先的に解決すべき課題の絞り込み、関連事業等） ● 第2回TF1に向けたヒアリング対象や確認事項 ● 国外制度で特に重視すべき配慮設計の要点
第2回（1月頃） 阻害要因の対応 策・方針案の検討	● 第1回の振り返り	● 第1回の論点整理に対する補足・修正意見の聴取
	● 国内容器包装プラスチックの資源循環に向けた課題整理と対応策 ● 動脈事業者（容器包装製造・利用事業者等）・静脈事業者での対応策の整理結果 ● 今年度の関連事業で得られた定量データの成果共有 ● 関連成果とヒアリングを踏まえた、優先的に対応すべき対策案 ● 環境配慮設計として取り込むべき事項の素案	● 動脈事業者・静脈事業者による対応可能性の共有 ● 取り組むべき優先課題の整理
	● 次年度に向けた方針の提示	● 環境配慮設計ガイドライン等の検討方針